

化氣利水である。

そうたい
燥苔

苔は乾燥して津液がないもの。はなはだしくなると苔の粒が砂状に粗くザラザラするが、これを「糙苔」と呼ぶ。

【診断意義】

①熱盛傷津・燥邪傷肺

燥苔や糙苔とともに紅絳舌・裂紋を伴うものは、熱邪・燥邪^{そうじゃ}*1が盛んで津液を損傷したり、陰液虧損したりして、舌が潤わないことによるものである。治療原則は清熱・養陰・生津である。

②陽虛氣化不行

燥苔とともに淡白舌・胖大舌を伴うものは陽虛・津不上承^{しん ふ じょうしやう}*2を示す。陽虛氣化不能によって津液を舌へ上承できないためである。治療原則は温陽化氣行水^{おんやう か きこうすう}*3である。

苔の潤燥は体内の津液状態を示すデータである。潤苔から滑苔への変化は津液運化失調^{しんえきうん かしつ}*4・水湿痰飲停留を示すが、滑苔から潤苔への変化は水湿痰飲が取り除かれる兆候である。また、潤苔より燥苔への変化は津液損傷を示すが、燥苔より潤苔への変化は津液回復の兆候である。



燥苔（熱盛傷津）



燥苔（陽虛氣化不行）

- * 1 燥邪：六淫外邪の1つ。
- * 2 津不上承：津液が上に届かない。
- * 3 温陽化氣行水：陽気を温めることによって気の水分代謝の働きを良くして、津液を舌へ上承させること。
- * 4 津液運化失調：肺・脾・腎の水分代謝機能が失調すること。

3) 腐膩

膩苔と腐苔が一緒にみられるものは「腐膩苔」と呼ぶ。

じたい
膩苔

舌面にべったりとして張り付き、細かく緻密で、こそいでも取れないもの。「有根苔」でもみられる。

【診断意義】

● 湿邪・水飲・痰濁・食積

膩苔は湿濁の邪気が内蘊^{ないうん}*¹して、胃気などの陽気を阻遏^{そあつ}*²することによるものである。さらに苔色や潤いの状態により寒熱を見分ける。白膩苔・白滑膩苔は寒湿・寒痰^{かんたん}*³・水飲^{すい}*⁴を示す。治療原則は散寒利湿・芳香化濁^{ほうこうかだく}*⁵・温中燥湿^{おんちゅうそうしつ}*⁶である。黄膩苔、また少津が現れれば湿熱・痰熱・食積化熱を示す。治療原則は清熱化湿・清熱化痰である。

暗くて汚い膩苔を「垢膩苔」と呼ぶ。膩苔に汚い粘液が覆われるものを「粘膩苔」と



膩苔（厚白黄膩苔）



膩苔（薄膩苔）



垢膩苔



粘膩苔